

2019年2月の望遠鏡観測の結果を(表-1)に示します。寺迫氏から観測報告がありました。

観測者 Observer	観測地 Locality	夜数 Night	時間 Time	流星数 Meteor			備考 Remarks
				Plot	S' n	Total	
寺迫 正典 (Terasako Masanori)	静岡県浜松市北区 (Hamamatsu shizuoka-pref)	2	120	-	34	34	25cm×51 1.6° L.T.
<b>2019年2月計</b>		<b>2</b>	<b>120</b>	<b>0</b>	<b>34</b>	<b>34</b>	<b>HR 17.0</b>

(表-1) 2019年2月望遠鏡観測結果

Table 1 Summary of the Telescopic Meteor observations in February, 2019

● 出現数変化

2019年2月の出現数変化を(表-2)に紹介します。

日	開始 JST		終了 JST		UT		観測方向 (Direction)	Plot	Seen	Total	HR	Mag	See	CI	観測者 (Observer)
	分	中央時	分	中央時	分	中央時									
2	28	45	29	45	60	2.844	Boo,CrB,Her	-	11	11	11.0	12.0	rG		寺迫 (Terasako. M)
28	27	30	28	30	60	28.792	UMa,CVn,Dra,Cam,UMi,Cep	-	23	23	23.0	12.0	rG		寺迫 (Terasako. M)
	<b>2 Night</b>				<b>120</b>	<b>Min.</b>		<b>0</b>	<b>34</b>	<b>34</b>	<b>17.0</b>				

(表-2) 2019年2月の望遠鏡流星の出現数変化

Table 2 Telescopic Meteors Observational data in February, 2019

● 光度分布

2019年1月の望遠鏡流星の光度分布は、(表-3)に示すとおりです。

	-5.0	-3.0	-2.0	-1.0	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	L-Mag	Total	Avg Mag.
寺迫 (Terasako. M)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	25	6	0		34	11.09
<b>Total</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>25</b>	<b>6</b>	<b>0</b>		<b>34</b>	<b>11.09</b>

(表-3) 2019年1月の望遠鏡流星の光度分布

Table 3 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in January, 2019

天候に恵まれなかったために寺迫氏の2月の観測は、2夜でした。観測数が少なかったために、2018年の観測結果をまとめられ報告を寄せられたので以下に紹介します。

2018年度の結果ですが、観測時間が2470分、観測流星数が734個でHRが17.8となりました。内訳は、自称ゼニス・クロス観測は、観測時間が1400分で、観測流星数が562個で、HRが24.1で、その他の観測が1070分で、観測流星数が172個でHRが9.3となりました。

ゼニス・クロス観測がその他に比べて2倍以上の観測結果が出ている事が解ります。ゼニス・クロス観測の内訳ですが、北方向の観測が圧倒的に多く、観測時間1000分、観測流星数が428個で、HRが25.7となり、更に夜半前(夕方)の観測が450分で流星数220個でHR29.3となり、夜半後(明方)の観測が550分で流星数208個でHRが22.7となり、夜半前の方がHRが高いのは興味深いことです。

この傾向は2017年度の観測にも見られました。次に東方向は観測時間240分で流星数75個でHR18.8、西方向が観測時間60分で、流星数18個HR18.0、南方向が観測時間100分で流星数41個HR24.6ですが、いずれも観測時間が北方向と比較して少なすぎで、比較するためのデータとしては使用できません。

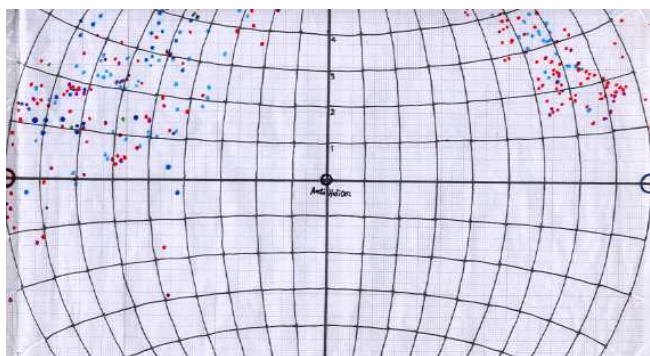
観測の標準化が必要と考えています。さて、2018年度及び2017・2018年度の流星プロット図を送信します。それぞれ、北極・太陽・衝を中心とした領域の図で昨年送信したものと同じです。特徴的なのは、北極図と衝図をご覧頂くと全くプロットのない領域があります。北極図に関しましては、観測時間帯が夕方・明方が中心となり、夜半の観測が全く無い事からこの様になったと考えられます。また、衝付近の観測も行っていないので、空白の領域が生じました。一人で全領域をカバーする事は不可能な事ですので、出来るだけデータが比較できるよう標準化するよう努力したいと思います。(原文のまま)

次のページに流星プロット図を紹介します。

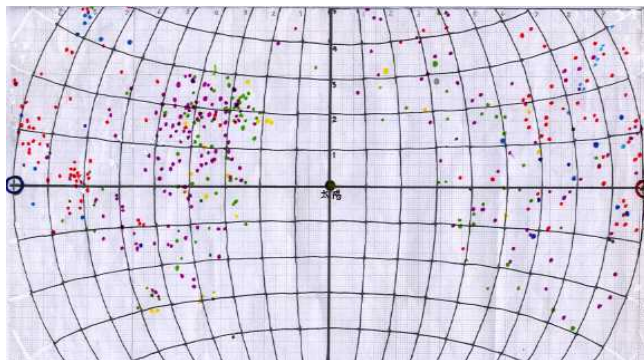
● 幹事から

3月末の人事異動で、転任します。あと2年同じ中学校で勤務するつもりでいたのに、予想しなかった出来事に慌てました。しかも通勤距離と時間が倍になりました。夜明けの遅い冬は、自動火球パトロールカメラの報告集計が朝に行えない状況になりそうです。

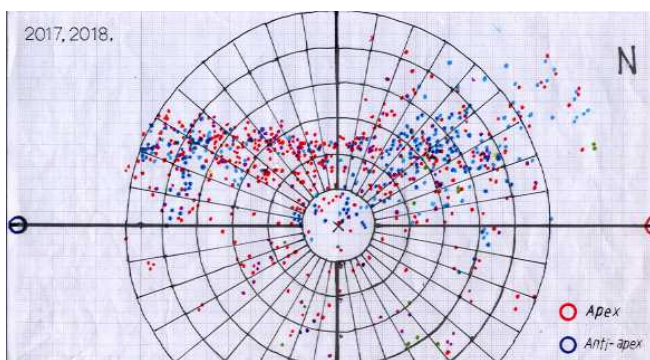
まあ必要人事ということで前向きに考えています。



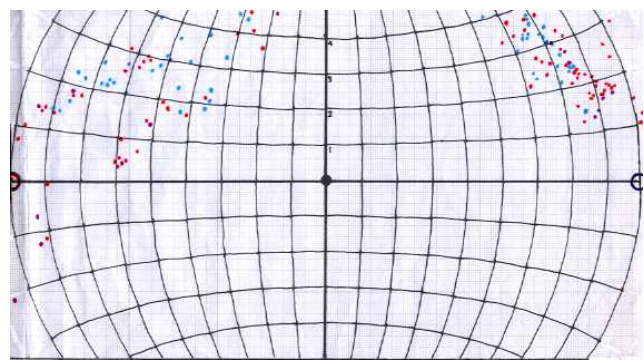
2017・2018衝



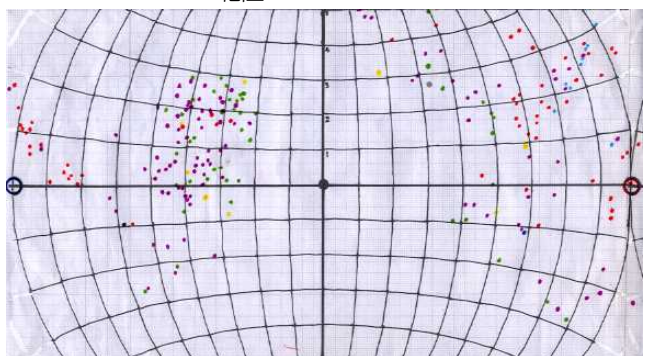
2017・2018太陽



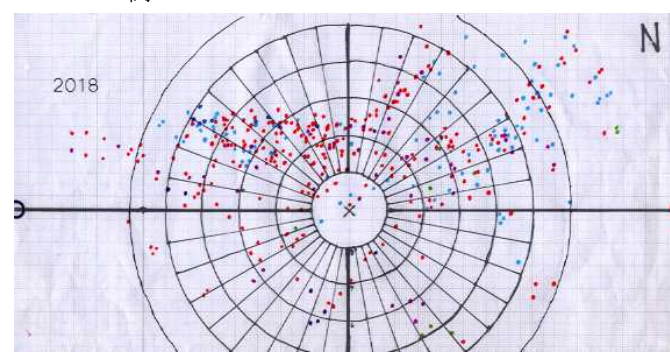
2017・2018北極



2018衝



2018太陽



2018北極

天文回報では白黒印刷なので、図は分かりづらいかもしれませんが、Web上ではカラーなので、イメージがつかめるといいます。

さて転任先の中学校では、全学年の技術を受け持つことになりました。数学の免許しかないのですが、昨年6月から前任者の退職に伴い、急遽2・3年生の技術を受け持ったので、その実績を買われたのでしょう。全学年の技術の授業を受け持ちます。しかし緊急事態で引き受けたのに、こんな事態になるとは夢にも思いませんでした。生徒たちとは、涙の別れになりました。保護者からも「先生、卒業するまでいるって言ったでしょ」と言われました。

(2019年3月30日記)